

1950年代・西武鉄道車両選集

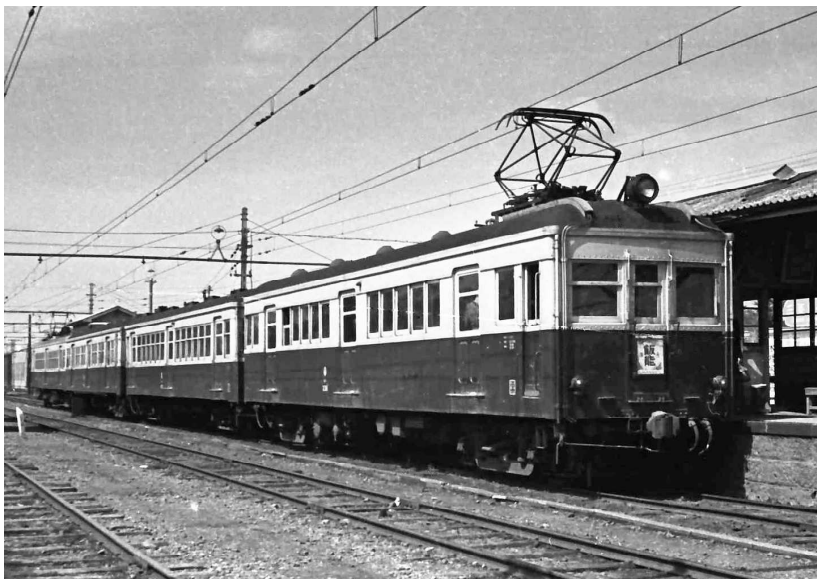


金子元昭

1950年代までの西武鉄道車両塗色 (モハ316+カハ1313 ロモデル16mmゲージ)



西武鉄道初の新造車 登場当時の初代501系4両編成 保谷にて 1955年撮影
モハ505+サハ1505+サハ1506+モハ506



西武池袋線

未だ旧武蔵野系車両が健在であった。

モハ231形他の4両編成。

1955年 保谷で撮影。

この形式は1928年川崎で製造され、当初は2ドアのロングシートであった。

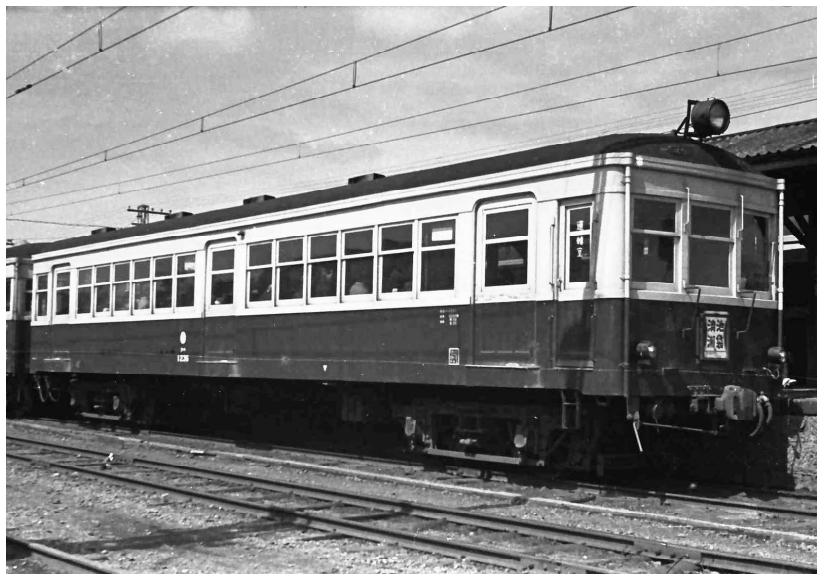


モハ241形2両編成。

1952年 保谷で撮影。

この形式は1928年川崎で製造された。

大形下降窓を持つ2ドアのロングシート車で製造当初は関東一のロマンスカーと言われた。撮影時はロングシート化されていたが未だ2ドアであった。



クハ1231形1236号車。

1955年 保谷で撮影。

この車両は1940年木南で製造された。



第二次大戦後の輸送力増強のため、西武鉄道では戦災廃車になった国電の払い下げを受け、手入れをして復旧させるなどして大量の国電タイプの車両が活躍した。

私が写真を写しだした 1950 年代前半頃、西武池袋線では 17 m 車両のモハ 50 形系列車両がその殆どを占めていた。



この頁、上の写真はその中で張り上げ屋根タイプのもので色分けしなければモハ 50 形そのままの感じである。

この頁、中の写真は標準タイプのモハ 50 形。



国電 50 系車両の制御車クハ 65 形のうち 3 両は三段窓の試作車となり、後の 63 形のモデルになった。この頁、下の写真はその中の 1 両、クハ 65 188 だった車両で 1945 年、戦災廃車となり、それが西武鉄道にきたものと思われる。珍品の部類に入るかも。

この頁の写真は総て 1952 年、保谷で撮影。

西武新宿線

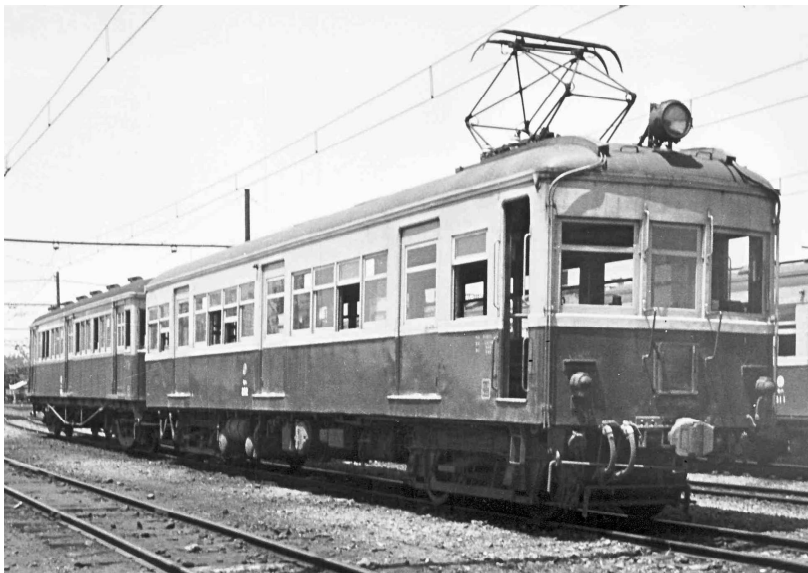


こちらも旧西武系車両が健在であった。

モハ151形159号車。

1952年 上石神井で撮影。

この形式車両は1927,8年に計12両川崎で製造された。写真の車両は1927年製。



モハ251形152号車。

1952年 上石神井で撮影。

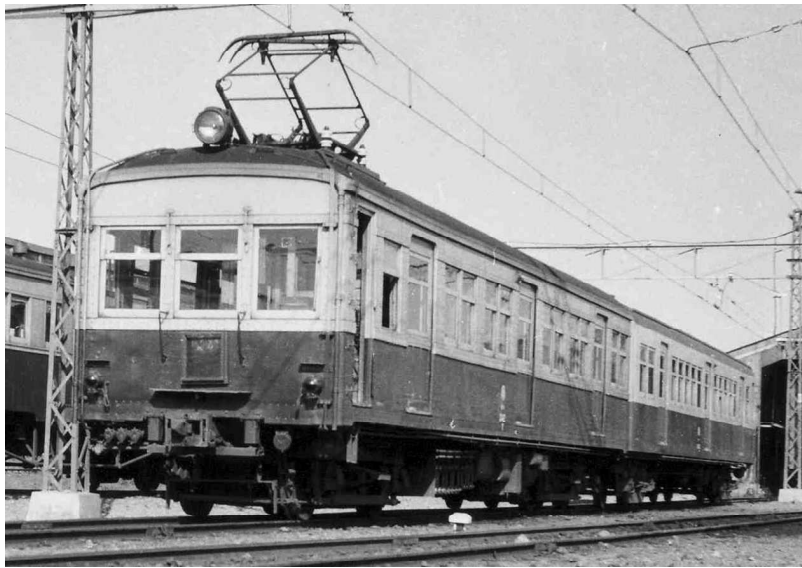
この形式車両は1940年に計10両梅鉢で製造された。撮影当時は後述のクハ1251形とペアを組んでいた。



クハ1251形1252号車。

1952年 上石神井で撮影。

この形式車両は1927年に計10両が日車、服部で製造された17mの木造車。製造当初は電動車であったが後に制御車化されてこの形式になった。



この頃、西武新宿線での国電形タイプの車両では西武池袋線とは異なり多様の形式車両が見られた。

この頁、上の写真は17m車両の311形だが種車はモハ30又は31形である。その他制御車を中心に20m車両（国鉄クハ55形相当）も登場していた。



また、当時私鉄各社に配られたモハ63形は3両だけ導入され、制御車2両、電動車1両が現役についた。この頁、中の写真はクハ1421号車である。

尚、この頁3枚とも1952年 上石神井で撮影。

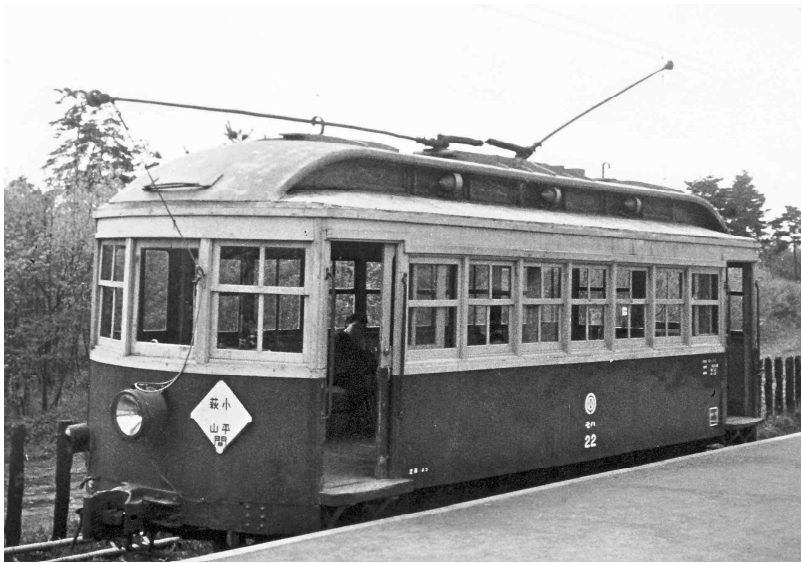


その他、国電木造車のサハ25形車両を購入し、少し手を入れた2001形車両を池袋、新宿線で使用していた。

この頁、下の写真2007号車は1951年6月1日現在の車両一覧表には載っていないのでそれ以降に配属されたものと思う。

この木造車両に乗っての通学は遠い昔の思い出！

多摩湖線



撮影時、まだ DC 600V であった同線には小型車両が使われていた。

このモハ22号車は 1914 年梅鉢鉄工製で大阪高野鉄道→駿豆鉄道→を経て同線に転属された。

尚、この頁の写真はすべて 1952 年に萩山にて撮影。



このモハ51号車は新宿軌道線（都電 14 系統）に使用されていた車両で 1925 年、田中製の木造車。

1951 年、保谷検車区で関東車両電気の手で復旧、この車号になった。

尚、使い勝手が悪く撮影の後間もなく鋼体化されてしまった。



このクハ1101号車は雲仙鉄道の気動車であった車両で 1951 年制御車化されてこの車号になった。

車体、台車とも気動車当時のままである。

（製造年；不詳）



山口線

「おとぎ電車」の愛称で

多摩湖ホテル前～ユネスコ村間
を蓄電池機関車が牽引して運転する
路線は

1952年7月、地方鉄道の免許を得て
「山口線」となった。(軌間 762mm)



上；B 1号機関車牽引の列車。

右；途中すれ違い場所でタブレットの交換。

下；新しい客車も増備された。

いずれも1953年撮影。

